

英語を使いこなす「感触」をつかんで

文法のイメージをとらえ 英語力を向上させる

英語を習得できない主な理由は、二つあります。一つは文法を捨ててしまうケース。文法を習得するのが苦しいので、あきらめてしまうわけです。もう一つは、文法に縛られてしまうケース。分厚い文法書を読破して、英語のルールをたくさん暗記しなければ、英語力は身につかないと思い込んでいるケースです。どちらも、英語を学ぶ態度として正しくありません。文法を捨ててもいけないし、文法を暗記すればいいというものでもない。

文法とは言葉の動きであり、いちばん重要な英語のしくみを記述したものですから、それなしで英語を自在に操ることは難しい。例えば「しばらく会っていない友達には“How are you?”じゃなくて“How have you been?”と言います」ということを習っても、「現在完了」という形のもつ意味を理解していなければ、何の脈絡もなく記憶した決まり文句にすぎず、すぐに忘れてしまうんです。

会話ができない、英語ができないというのは、文法をちゃんと勉強していないからなんです。ただし、ルールの羅列された文法書を読みさえすればいいというわけでもありません。

では、文法をどのように勉強するか。一つは、文

法の「感触」をつかむということです。文法書の膨大な情報をただ暗記するのではなく、イメージとして文法をとらえるのです。

例えば「～を持ってたらしいのに」と言う場合“I wish I have～.”という言い方はしないんですね。正しくは“I wish I had～.”。過去形が出てくるんです。なぜ、過去形が出てくるのかを、過去形の持っている基本的な感触からつかまなくてはなりません。学習者がやるべきことは機械的に暗記することではなく、文法項目それぞれにどのような感触が伴っているのかをイメージでつかむことなんです。

単語を並べるだけでも 会話は成立する

基本的な英語の性質を理解することも大切です。例えば、語彙が少なかったり、細かな文法を知らなくても、なぜか英語でコミュニケーションできる人がいます。それは、英語がどんな言葉かということが分かっているからなんです。

例えば「彼は幸せです」というのを、ネイティブは“HE IS HAPPY.”と全部同じ強さにはしません。“HE is HAPPY.”のようにbe動詞は弱く、あるいは短縮されて読まれるのが普通です。なぜならbe動詞は意味に絡んでいないから。極端に言えば「he」と「happy」さえ並べば意味は通じる。

英語はいわば「配置のことば」、複雑な語形変化もなければ「てにをは」もない。上手に並べる、その勘所をわかるだけで十分コミュニケーションできるんですよ。英語がグッと楽になってくる。

書籍を選ぶ際も、まずは細かな文法事項よりむしろ英語全体のデザインがつかめるものが良いと思います。そこから個々の「感触」へ進む。ですが、その段階はなるべく早く卒業しなくてはなりません。文法をつかむことは目的ではないからです。目的は英語を使うこと。ですから、早く生の英語に触れてほしいんです。話す機会をつくることは、なかなか難しいかもしれませんが、読むことはいくらでもできるはずです。その際、大切なのは、ある程度自分のレベルに合ったものを選ぶこと。また、自分が興味を持てるものでなければ、継続するのは難しいでしょう。

最後にもう一つ。発音には、こだわり過ぎないように。「R」と「L」の区別がつかなくてもいい、日本人英語があってもいいんです。それでも十分通用します。発音にこだわるあまり、英語を話せないというのは、本末転倒です。（談）

大西泰斗さん



おおにし・ひろと／東洋学園大学教授。オックスフォード大学言語研究所客員研究員を経て現職に至る。近著に『ハートで感じる英文法 NHK 3か月トピック英会話』（NHK出版）、『ネイティブスピーカーの英文法絶対基礎力』（研究社）、『みるみる身につく！イメージ英語革命』（講談社プラスアルファ文庫）。